

コラム6 「足羽臣」の習書

駒首潟遺跡は江南区亀田早通にあり、海拔ゼロメートル以下の沖積地に立地している。平成十八（二〇〇六）年に大型小売店の建設に伴い発掘調査が実施された。図二二九はその時に出土した九世紀後半〜十世紀前半の木簡で、長さは四二センチメートルである。

「我」「衆」「佛」「是」など、同じ文字が繰り返し書かれており、文字の練習をした木簡である。また、三行目の中ほどには、「足羽臣」と書かれている。足羽臣は、越前国（福井県）足羽郡を本拠地とする地方豪族の名前である。「足羽臣」と書かれた木簡が出土したということは、遺跡の周辺に「足羽臣」という名前の人がいたということである。

『日本書紀』によれば、七世紀半ばに淳足柵や磐舟柵が設置された際に、北陸地方から移民が導入された。また、平安時代には、沼垂郡（阿賀野川と荒川に挟まれた地域）に足羽郷があり、越前国足羽郡からの移民に因む郷名と考えられている。しかし、駒首潟遺跡がある蒲原郡には、移民の記録はなかった。この木簡は、書物に記されていない、北陸地方

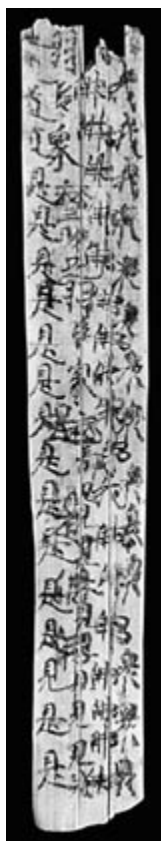


図229 木簡  
赤外線写真

方からの  
人々の移住  
を示してい  
る。